



食と農業

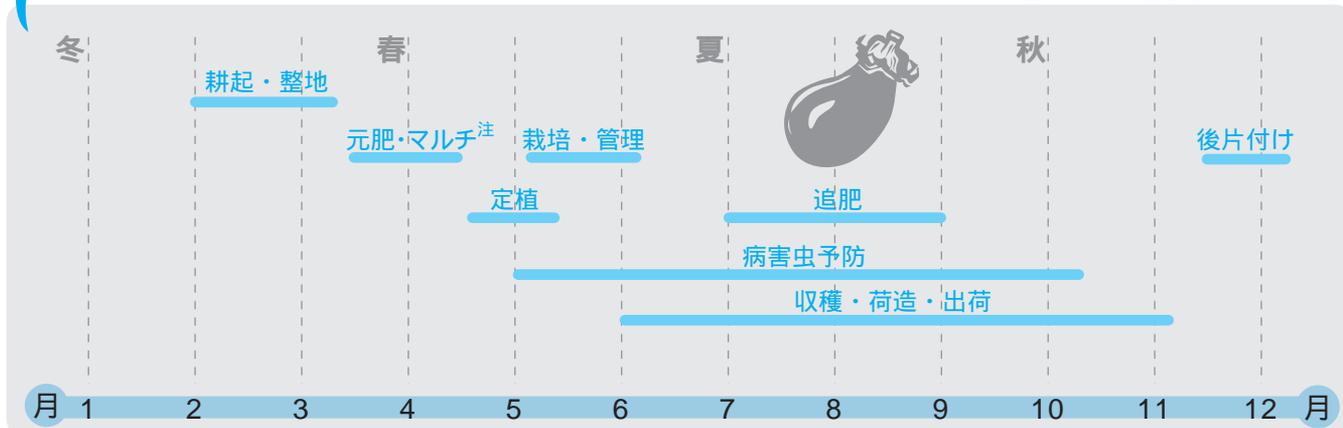
皆さんは今日何を食べましたか？
その中に、お米・野菜・果物など
農家の人たちが作った農産物はあ
りませんでしたか？

農業は皆さんの食生活に密接に
関わっています。もし、食卓から
農産物が消えてしまったら、私た
ちの食生活はどうなってしまうの
でしょうか。

そこで、今回は農業を特集しま
す。実際に農家の人たちにインタ
ビューを試み、農作業の苦労話や
魅力について話していただきまし
た。

なすの月別作業項目

注:マルチ…地面を覆うフィルムのこと



なすを育てるのは大変だよ。なす栽培は暑い時にやる仕事なので当然きつい。それに時間をかけて丁寧に育ててやらないと、いいものではないからね。でも、部会の人などの交流があるからきつい仕事も続けてこれたんだと思う。

なすを育てるのに大事なものは肥料と水のやりかた。これがなすの味を決めてしまう。肥料も水もやる量はもちろん、時期を間違えるといいものはできない。なすの場合、雨が降らなくてもあまり影響はないんだ。だから、今年も水不足と言われていた時期があったけど、あまり影響はないよ。どちらかといえば、雨はあまり降らないで、自分たちで調整して適量の水をやったほうがいいものができる。肥料は、最近、部会全体で有機肥料を主体に使用するようにな

なすを育てるのは大変だよ。なす栽培は暑い時にやる仕事なので当然きつい。それに時間をかけて丁寧に育ててやらないと、いいものではないからね。でも、部会の人などの交流があるからきつい仕事も続けてこれたんだと思う。

な

なすを育てるのは大変だよ。なす栽培は暑い時にやる仕事なので当然きつい。それに時間をかけて丁寧に育ててやらないと、いいものではないからね。でも、部会の人などの交流があるからきつい仕事も続けてこれたんだと思う。



夏秋なす部会 杉浦 嘉明さん



将来どんなものになるかを

考えながら育てるのが楽しみ

ってきた。だから、味はこれからどんどんよくなっていくと思うよ。

4年前から毎年豊坂小学校でなすの栽培の仕方を教えているけど、去年は僕らもびつくりするくらいよいものができた。しかも、小学校で栽培しているなすは無農薬だからね。害虫などに邪魔されなかったのもすごいけど、水やりや除草をしっかりとやったからこそ、よいものができたんだと思うよ。一緒にやってくれたら夏秋なす部会の稲吉栄一さん、山本貞雄さん

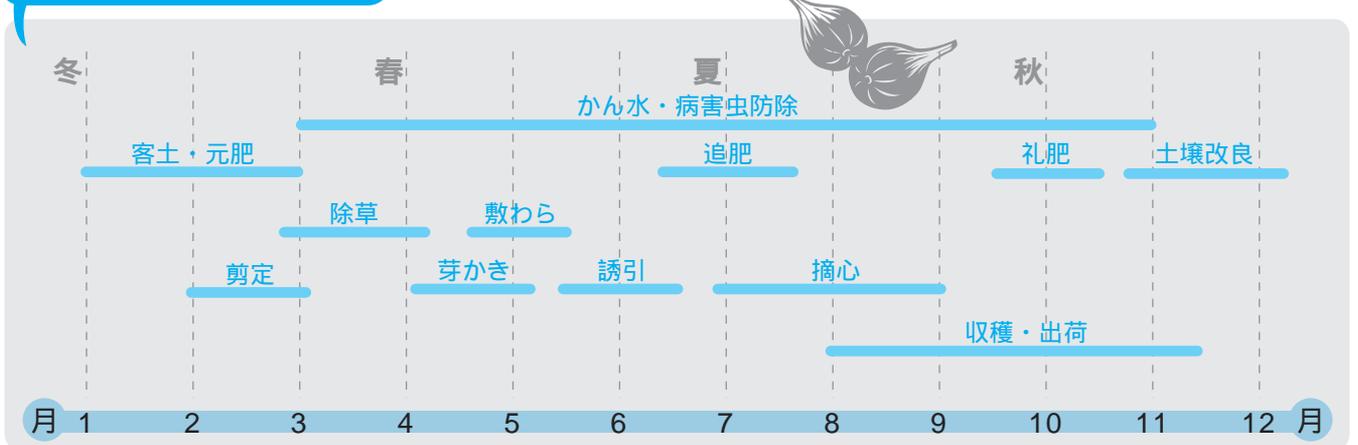


にはとても感謝しているよ。

僕は体が健康な限り農業を続けていきたいね。農業は、収穫する時も楽しみだけど、将来どんなものになるかを考えながら育てるのも楽しみだね。

子どもたちには、たくさん農産物を作って、自分たちで食べてほしいね。農業の大変さ、楽しさ、大切さが分かり、農産物がどのようにつけ、育つかも分かる。農作業を体験することで、いろいろなことを学んで欲しいと思うよ。

いちじくの月別作業項目



もちろん大変なこともありましたが、いちじくは実が柔らかいから、あまり長く手を触れることができないんですよ。だから、パツクに詰める作業も、丁寧にかつ素早く詰めることが求められます。また、気温の変化や特に水の管理、農薬の使い方にもかなり気を使いました。でも、1番大変だったのが日持ちが良くないことです。パツク詰めした時期が適熟（ちょうど食べごろの状態のこと）だと、店頭

に並ぶ時にはすでに熟し過ぎの状態になってしまっています。かといってあまり熟していないものを詰め、店頭で並ぶ時でもまだ食べごろになっていないのでは困ります。店頭で並び、食べる人の口に入る時に1番おいしい状態にもっていくこと、このタイミングをつかむことが本当に大変でした。

それでも、農業を続けているのは苦労以上に喜びが大きいからですね。僕が常に感じているのは、物を作ることに喜びを感じているのは、売れることの喜びです。特に自分が



いちじく部会 ^{すずき まこと} 鈴木 誠 さん



1番最初に出荷した品物が売れた時はすごく感動しました

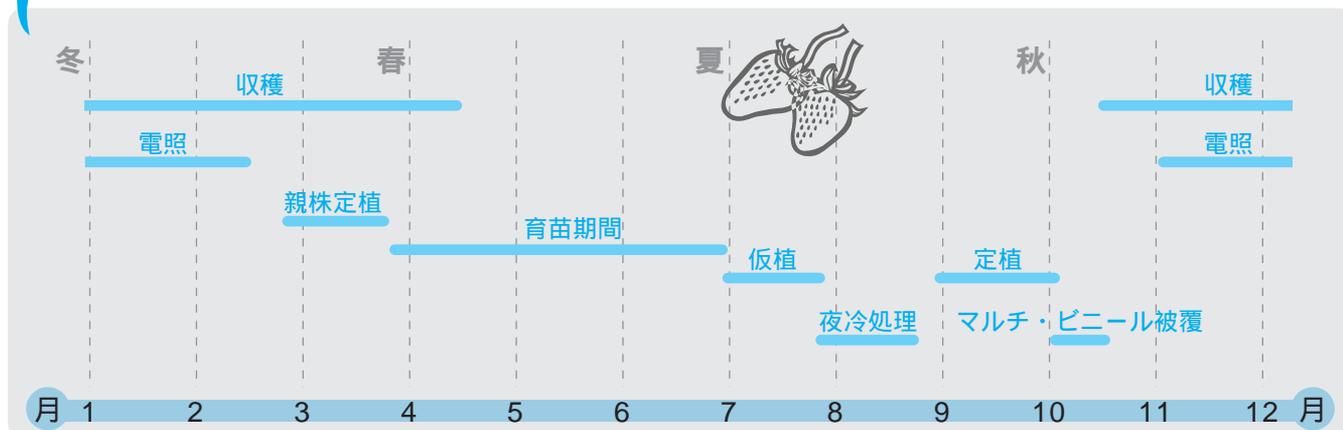
来は日本一の農家になりたいと思っています。量はもちろん、品質の良い物を作っていきたいと思



作ったもので、1番最初に出荷した品物が売れた時はすごく感動しました。また、新鮮なものをその場で食べることができ、これは農家ならではの特権だと思います。さらに、いちじくは他の果実に比べて価格が安定していることも魅力の一つです。

今のいちじく部会には、若い人はあまりいません。同年代と一緒にいちじくを作る仲間がたくさんできたらお互いに競いながらよりよいものが作れると思います。将

いちごの月別作業項目



ス

トロベリー、いちごは赤ちゃんからお年寄りまで老若男女に親しまれ、ビタミンCが豊富です。意外と知られていないんですが、実はいちごは野菜なんですよ。



いちご組合 本田 明さん

僕たち農家にとって、悪天候が1番の敵です。台風が来たときは、まずハウスを守らなければなりませんから。雨風が強い中、ハウスに行つて壊れないように体を張つて守ります。体を使う仕事なので、肉体的に疲れるのは当然です。それと、長期の休みが取れないというのが少しつらいですね。夏休みでも子どもを遠くに遊びに連れて行くことができない。でも、会社勤めのころは夜勤もあり、子どもたちと話すことができない日も多かったです。そのころに比べれば、今は子どもたちと話す時間は増えました。あとは、マニュアルがないというの難しい点の

一つですね。教えてもらうことはできるのですが、人によって管理の仕方や農薬のやり方など様々なので、こういうやり方をすれば必ずうまくいく、ということはないんです。結局はたくさんの方のやり方を自分の目で見て、できるだけ多くのことを学ぶしかありません。

採ったばかりのいちごを食べた時の子どもたちの顔が忘れられないね

が、部会員は年配の人から僕よりも年下の人たちもいます。でも、いちご作りの話になると、年齢は関係なく、いろんな意見が出てきます。逆に年下の人たちから教えられることも多いくらいです。腹を割って話せるいちご組合で仕事をしていて本当に良かったと思つています。また、荻谷小学校の子どもたちが家のハウスにいちご狩りに来た時、採ったばかりのいちごを食べた時の子どもたちの顔が忘れられないですね。おいしそう

に食べていたというよりも、必死に食べていたという印象でした。いちご狩りに行くと練乳を使つていちごを食べますが、採ったばかりのいちごは、練乳を使わなくても本当に甘くおいしいんです。農家としての目標ですが、常に昨年度以上の量を生産していきたいと思つています。また、子どもたちにはもっと土に触れさせてあげたいと思つています。自然と触れ合い、農業の大切さを学んでほしいと思います。



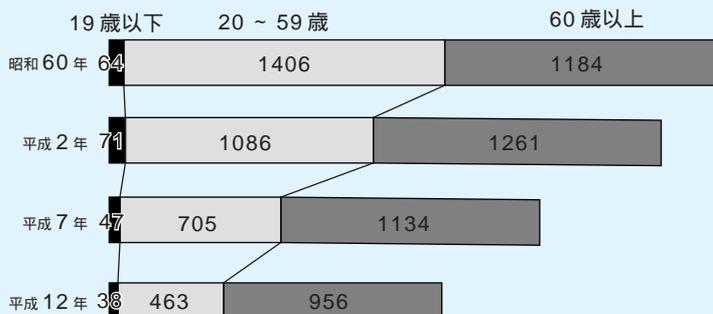
幸田町の農業の現状

幸田町の農業就業人口は年々減少傾向にあり、特に20歳から59歳までの就農者の減少が目立ち、その結果農地の荒廃化などが問題となっています。

これまで農業が営まれていることで、きれいな水・環境が守られてきました。しかし、このまま農業が衰退してしまつたら私たちの暮らしはどうなってしまうのでしょうか。

幸田農業就業人口の推移

単位：人



出典：こうたの統計

田畑は荒れ、幸田町の自慢である、自然豊かな緑はなくなり、田んぼでおたまじゃくしを見ることもできなくなつてしまふかもしれませぬ。そうならないためにも「地元の農産物」「地元の農業・環境」を今一度考え直していただきたいと思ひます。

それでは、どんなことをすればよいか。その1つの手段が地産地消です。

地産地消ってなんだろう？

地産地消は「地元でとれたものを地元で食べる」と意味します。地産地消の取り組みを行うことで、いろいろな良いことがあるのです。

- ・新鮮でおいしい農産物を食べることができる
- ・作る人の顔が分かるので、消費者は安心・安全を感じることが出来る
- ・食文化を伝え、新たな文化を生み出すことができる
- ・作る人のやる気生まれる

幸田町では、地産地消の取り組みとして地元の農産物をもつと知つてもらつたために、学校給食センターが計画的に、小中学校の給食に幸田町で作つた農産物を使用した献立を作つています。また、各学校でもいろいろな農産物を作つて、それを試食するなどして農業と関わる機会を増やす取り組みを行っています。

地産地消は、地域食材を多く活用することにより、作る人と食べる人の心をつなぐ、心と体の健康づくりにつながるものと考えます。



地元のなすを使ったカレー

いずれにしても、地産地消を進めるためには、行政の取り組みだけでなく町民のかたの理解・連携が必要です。「地元の農産物」「地元の農業・環境」を、大切に思う気持ちをも皆で育てていきましょう。

農業を始めてみませんか

農業と聞くと、漠然と大変だというイメージを持つかたが多いかもしれませんが、確かに自然の中で農産物を作るため、自然災害も起こりうる可能性もあり、その中で農産物を作ることは大変なこともありません。しかし、逆に言えば自然と触れ合い、自然を感じながら仕事できることこそが、農業ならではの魅力ではない

でしょうか。

農業は、自分で計画を立て実行し、作物を育てていくうえで、色々なことを経験しながら、収穫する時に達成感を感じるものです。その途中では、大変だと感じることもあれば、楽しいと感じることもあります。その中で、畑の土の匂い、稲穂が垂れ下がつた水田風景、農作業をして汗を流すことの爽快感・充実感、どれも農業を経験することでしか味わえない世界です。

皆さんが快適な生活を送るうえで、食は欠かせない要素です。そして、その一端を担っているのが農業です。農作業に一歩足を踏み入れ、自然と直に触れ合いながら生活していくことにより、農業の魅力と重要性を感じることはできないではないでしょうか。農業を始めてみようと思われたかたは、次ページ下段の各部会へ相談してみたいかがですか。

問合せ 産業課農業振興係
(内線213)



就農支援資金(無利子)が ご利用いただけます

新たに農業を始めようとするかたを対象に、就農に必要な資金をお貸しする制度があります。この資金を利用するためには、認定就農者として県知事の認定を受ける必要があります。

対象者 次のすべての条件を満たすかた(認定就農者)

- ・就農前の年齢が18歳から65歳までのかた
- ・年間150日以上就農が見込まれるかた
- ・おおむね250万円以上の農業所得が見込まれるかた
- ・農業に関する知識を得るための研修を行うまたは行ったかた

資金の種類 詳しい内容は、お問合せください。

就農研修資金

研修に関する費用(資格取得費、授業料など)

就農準備資金

就農準備に要する費用

(就農先調査旅費、図書購入費など)

就農施設等資金

経営を開始するのに必要となる費用

(農業施設の設置、機械の購入など)

そのほか 資金の貸付けまでには、時間(3か月程度)が必要となりますので、お早めにご連絡ください。

問合せ 愛知県西三河農林水産事務所 農業改良普及課 27-2780

あなたのみかんの木で もぎとりをしてみませんか

みかんの木を丸ごと1本お買い上げいただき、収穫したみかんはすべてお持ち帰りできます。

開園 11月12、13、19、20、26、27日



ところ 須美地内

みかんの品種

宮川早生、青島

提供価格 みかんの木1本
(収穫量は約40^{kg}前後)

5,000円程度 *価格は木の大きさによって異なります。当日皆さんに選んでいただきます。

支払方法 当日、現地のほ場にて、木を選んでいただいた後、現金でお支払いをお願いいたします。

主催者 幸田町柑橘組合

持ち物 はさみ、収穫後にみかんを入れるための箱

申込み 8月1日から9月30日までにJAあいち三河 幸田営農センターへ、氏名、住所、電話番号、必要本数、希望日を電話(63-2683)またはFAX(63-2689)にてご連絡ください。

農業を取り組まれたいかたへ 各部会・組合からお知らせ

JAあいち三河では、農地の有効活用のため、地域の特性を活かした生産誘導、産地作りを務めています。皆さんも一緒に夏秋なす、いちじく、いちご、採種(水稻)、柿(筆柿)を栽培してみませんか!ご連絡をお待ちしています。

夏秋なす部会

「夏野菜といえば、なすです。一緒に夏秋なす栽培に取り組んでみませんか!」

いちじく部会

「愛知県はいちじくの生産量が日本一を誇っています。平成13年発足の新しい部会ですが、初心者にもわかりやすく栽培指導を行っています。ほ場見学なども行っていますので、一度いちじく栽培を考えてみてはいかがでしょうか!」

いちご組合

「果実の女王のいちごを作ってみませんか!ぜひ一度ご連絡ください」

採種部会(水稻品種)

「重要な水稻の種子を栽培してみませんか。ぜひ一度ご連絡ください」

柿部会(筆柿)

「世界で幸田町にしかない、筆柿を作ってみませんか!筆柿園地の紹介もしています」

問合せ JAあいち三河 幸田営農センター 63-2683

